

森・まち・人をつなぐイナカチプロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

伊那谷の林業は、森林所有者の高齢化や従事者不足等に悩まされており、間伐もされずに放置状態となっている里山も見受けられる。このため、森林整備技術の向上と人材の育成に向けたシステム作りが求められている。一方、中心商店街においては、空き店舗の増加や後継者不足など多くの課題が存在している。多種多様な業種・団体が関わり、新たな発想に基づくまちづくりが必要となっている。

そこで、里山と市街地が近い距離にある伊那の特性を活かし、里山の資源である間伐材をまちなかで活用し、森林保全と商店街の活性化を図った。

事業内容

- 間伐材の枝葉の蒸留水・エッセンシャルオイルといった里山資源の新たな活用の提案、全国規模の展示会における伊那産の木製品の展示やPR冊子の配布などの魅力発信事業を行なった。
- 森林整備技術講習会や木製品づくりを体験するイベントを開催し、間伐材利用に関心をもつ人材の育成を図った。
- 朝マルシェ等で間伐材を活用した木のブロック KEES (キーズ) や木製遊具を使った遊びを提案し、次世代を担う子どもたちに木の魅力を体験する「木育ワークショップ」を実施した。
- 商店街に間伐材製品を陳列する「木のショールーム」を設置し、地元の木の魅力を感じられる空間を創造することにより誘客を図った。



【KEESの森で1日イベント】

事業効果

- 里山の間伐材を使うことによる里山森林保全と商店街の活性化とを融合させ、地域の資源である豊かな自然環境に気づき、地域の財産としての新たな価値を生み出す取組となった。
- 心豊かなライフスタイルの実現に共感を持った多くの地域住民等が参画することにより、価値観を共有することができた。また、全国的な展示会等に出展し、県内外へ伊那の魅力のPRと伊那らしい価値の提案を行い伊那のファンづくりができた。
- 地元の高校生・信大生をはじめ次世代を担う若者や、多種多様な業種の人々が広く関わることにより、地元愛の醸成・明るく活気あふれる街づくりと、地域循環型の新たなビジネスモデルの創出に向けた取組となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地域の資源を新たな発想でビジネスにつなげ、地元の間伐材を活用した様々な木製品をプロデュースしていく。また木製品の全国への流通を展開するなど森から仕事をつくり、地域に関わるすべての人々に笑顔の循環を生み、持続可能な地域づくりを目指す。

【選定のポイント】

里山の資源を活かし里山と街とをつなげるため、森林整備の講習会や木工体験講座、朝マルシェでの木育ワークショップを開催し多くの参加を得た。また、県内外の展示会等への出展などを通じて、伊那谷の新たな魅力の発信を行うなど、里山資源の活用・森林整備の促進及び商店街の活性化に寄与した。

団体名	伊那まちの再生やるじゃん会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	プロジェクトリーダー 平賀裕子 0265-96-0438	事業費	2,844,683円
	https://www.facebook.com/keesproject	支援金額	2,131,000円